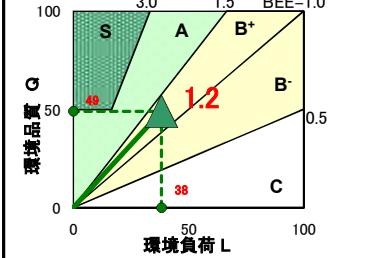
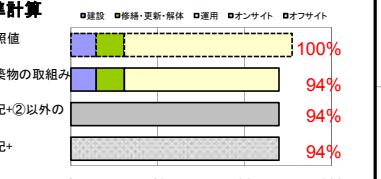
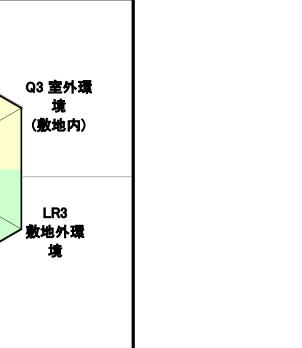
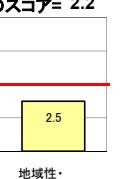
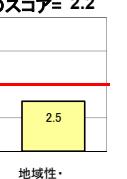
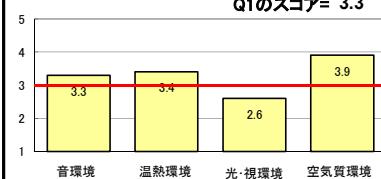
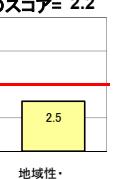


## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中部国際空港新旅客ターミナルビル	階数	地下0階地上2F
建設地	愛知県常滑市セントレア一丁目1,2,3	構造	RC造
用途地域	防火指定なし、市街化調整区域・準6地域	平均居住人員	1,264 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、物販店、集会所等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年5月28日
敷地面積	59,583 m <sup>2</sup>	作成者	谷 喬洋
建築面積	28,062 m <sup>2</sup>	確認日	2018年5月28日
延床面積	43,976 m <sup>2</sup>	確認者	佐々木 喜啓

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
<b>BEE = 1.2</b>					
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ B-: ★★ C: ★	3.0 1.5 BEE=1.0	30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★	3.0 1.5 BEE=1.0	30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★	3.0 1.5 BEE=1.0
					
					
					
					
					

2-4 中項目の評価(バーチャート)	
<b>Q 環境品質</b>	<b>Q のスコア = 2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q1 のスコア = 3.3</b>
<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q2 のスコア = 3.1</b>
<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>	<b>Q3 のスコア = 2.2</b>
<b>LR 環境負荷低減性</b>	<b>LR のスコア = 3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR1 のスコア = 3.7</b>
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR2 のスコア = 3.5</b>
<b>LR3 敷地外環境</b>	<b>LR3 のスコア = 3.0</b>

3 重点項目	
<b>①地球温暖化への配慮</b>	<b>③敷地内の緑化</b>
	
	
<b>②資源の有効活用</b>	<b>④地域材の活用</b>
	
	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3.1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)}を除いた面積} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$





<b>3 対応性・更新性</b>			0.2	3.3	0.29		-	3.3
<b>3.1 空間のゆとり</b>			4.3	0.31				
1 階高のゆとり			5.0	0.37				
2 空間の形状・自由さ			4.0	0.63				
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	0.31				
<b>3.3 設備の更新性</b>			4.3	0.28				
1 空調配管の更新性			2.0	0.17				
2 給排水管の更新性			3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			3.0	0.11				
4 通信配線の更新性			3.0	0.11				
5 設備機器の更新性			3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22				
<b>G3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30		-	-	2.2
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	独自③		1.0	0.30				1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	独自④		3.0	0.40				3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			2.5	0.30				2.5
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>	独自④		3.0	0.50				
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			2.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-				3.4
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40				3.7
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPIm=0.66	5.0	0.30				5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>		ハイサイドライト	4.0	0.20				4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			2.4	0.30				2.4
<b>4 効率的運用</b>			3.5	0.20				3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00				
4.1 モニタリング			4.0	0.50				
4.2 運用管理体制			3.0	0.50				
集合住宅の評価			-	-				
4.1 モニタリング			-	-				
4.2 運用管理体制			-	-				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	-	3.5
<b>1 水資源保護</b>			3.4	0.15				3.4
<b>1.1 節水</b>		節水コマなどに加え、省水型機器を用いている	4.0	0.40				
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67				
2 雜排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33				
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			3.7	0.63				3.7
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.07				
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.25				
<b>2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用</b>	②	ビニール床材、ボード	3.0	0.21				
<b>2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>	独自		4.0	0.21				
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-				
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>	独自	躯体と仕上材が容易に分別可能、内装材と設備が容易に取外し可	5.0	0.25				
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.3	0.22				3.3
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		有害物質を含まない建材種別を1つ使用	4.0	0.32				
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			3.0	0.68				
1 消火剤			-	-				
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50				
3 冷媒			3.0	0.50				
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	-	3.0
<b>1 地球温暖化への配慮</b>	①	ライフサイクルCO2排出率が94%	3.2	0.33				3.2
<b>2 地域環境への配慮</b>			2.5	0.33				2.5
<b>2.1 大気汚染防止</b>			3.0	0.25				
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			2.0	0.50				
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			3.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25				
3 交通負荷抑制	独自	適切な量の駐車スペース、管理用駐車施設確保、導入路の位置配	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25				
<b>3 周辺環境への配慮</b>			3.2	0.33				3.2
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			3.0	0.40				
1 騒音	独自		3.0	1.00				
2 振動	独自		-	-				
3 悪臭			-	-				
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			3.0	0.40				
1 風害の抑制			3.0	0.70				
2 砂塵の抑制			3.0	0.30				
3 日照阻害の抑制			4.4	0.20				
<b>3.3 光害の抑制</b>		光害対策ガイドラインのチェックリストを過半を満たす、広告物照明なし	5.0	0.70				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.30				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	-				

**重点項目スコアシート**  
中部国際空港新旅客ターミナルビル新築工事

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:3.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{（評価点} \times \text{全体に対する重み})}{\text{重みの総和}}$   
重点項目スコア=

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計 + 1

## ■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 中部国際空港新旅客ターミナル

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 シンプルで良好な室内環境を確保する。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高H=3.9m以上を確保し、壁長さ比率0.11により空間の形状・自由度を考慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁デザインは、周辺の建物とバランスよく調和した計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル資材、節水機器を活用する
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。